

令和7年度 つぼみ保育園 保育所自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。

このことを踏まえつぼみ保育園では保育の質の向上を図る為に保護者アンケートを実施するとともに保育所の自己評価を実施致しました。評価の結果を踏まえ今後もより良い保育を提供できるよう努力していきます。

評価について

評価をするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

◎—よくできている ○—ほぼできている △—努力が必要

評価対象期間

令和7年4月1日から令和8年3月13日

評価責任者

施設長

岡本由美



1・保育理念

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育理念、保育目標を理解し正しく説明することができる。	◎	入社時、全体研修などで保育理念を伝えている。年度末に全員参加で再周知を行う
保育園の園目標や方針が保護者に知らせている。	◎	入園時に重要事項説明書にて全員に口頭説明。玄関、各保育室に掲示する。

2・保育計画

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育計画を作成し、見直しをもった保育を実施している。	◎	保育所保育指針に基づき、保育課程、年間保育計画月案、週案、日案を作成している。
年間計画、年間行事の見直しをしている。	◎	保護者アンケート、運営委員会等で保護者のご意見を伺い、計画に活かす。年度末には全員参加で振り返りを行い精査する。

3・人権尊重

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
こどもの人権が尊重され、大切にされていると感じる。	◎	こどもの思いを大切に子どもが理解しやすい言葉で伝える。ひとりひとりの個性を理解する。自分を表現する力が十分でないこどもの気持ちを汲み取るよう努力している。園内研修での周知。

4・個人情報保護

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
個人情報の扱いについて入園時等で説明されている。	◎	重要事項説明書にて個人情報の取り扱いについて周知
業務上で知り得た子どもの情報に関する守秘義務について全職員で周知している。	◎	同意書をとる。職員へも守秘義務の周知徹底に努めると共に書類、電子機器の取り扱いについて徹底している。
保護者からの相談の内容の守秘義務について全職員で周知している。	◎	園内研修で守秘義務とはについて学ぶ。入社時は守秘義務について同意書をとっている。

5・保育内容

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
遊びに入れない子どもや、全体の様子に気を配っている。	◎	一人ひとりのこどもに気を配り丁寧に関わるようにしている。早くしなさいとせかす言葉やいけませんなどの制止の言葉を用いない保育を心掛けている。
こどもがのびのびと意見や意思が表現できるような保育が行われている。	◎	こども同士の関係を良くするような言葉かけをしている。自分の思いを上手に伝えられない場合や表現が適切でない場合はこどもの気持ちを代弁し仲立ちしている
遊びを通して、友達や保育士との関わりが十分持てるよう配慮されている。	◎	保育者自身が遊びに加わり楽しむ。ルールのある遊びを取り入れ集団生活の楽しさを伝える。
遊びや生活を通して人間関係が育つような配慮をしている。	◎	トラブルの際には状況を把握し双方の思いを聞き丁寧に対応している。正しい言葉遣いを大人が見本を見せる。
身近な自然や社会と関わられるような取り組みがなされている。	◎	畑を借りての自家菜園を行いながら近隣住民との交流の場としている。敷地内の田んぼで米作りを行っている。
園の行事や保育の内容などが知らされている。	◎	アプリや掲示板、ブログを使い日々の活動を伝える。

6・保育環境

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
園内外が清潔で心地よい空間となっている。	◎	掃除分担表を作成し日々清潔な環境作りをしている。チェックリストを作成し消毒作業の徹底を図る。ゴミが落ちていたら拾う、掃くなど日々の掃除を徹底している。玩具の消毒を日課としている。
年齢に応じた保育が提供できるような環境である。	◎	年齢ごとに仕切られた保育室で落ち着いて生活ができる。可動式壁の為、場面に適した空間を確保できている。年齢に合った保育教材を用意している。
こどもが落ち着いて過ごせるよう、保育室の雰囲気おもちゃが工夫されている。	◎	こどもたちの手の届くところに年齢に合ったおもちゃを用意している。季節を感じる装飾をしている。

7・特別な支援を要する子どもへの対応

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	○	一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画を作成している。個別対応だけでなくなるべく集団生活の楽しさに気付けるよう支援を行う。配慮が必要な子どもと集団生活の両立の難しさが課題となる。年齢相応の活動についていけない子どもがいた場合活動内容をどのように調整するかが課題となった。

8・保護者支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
意見や要望などへの対応ができています。	○	行事後や定期的に保護者アンケートを行い改善の努力をしている。 今年度保護者からの要望により改善した点。 ・園内活動記録の継続 ・給食試食会の実施 ・運動会のDVD販売 ・行事時のカメラマン依頼
職員が子育て等、話しやすい雰囲気や態度で接している。	○	保護者の思いを理解するように努め、丁寧に対応するように心掛けている。保護者と子どもに笑顔で挨拶をし、気持ちの良い対応を心掛ける。デリケートな内容の際は環境にも留意する。

9・安全対策・健康管理

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
保育中の体調への気配りや怪我等に対して配慮されている。	◎	事故、怪我のないよう声を掛け合っているが、防ぎきらなかった際は速やかに怪我の状況を判断し必要に応じて受診をした。また、必ず事故、怪我の検証を行い再発防止に努めた。
感染症の発生状況や注意事項などが知らされている。	◎	横浜市の感染症情報の提供。感染症発生時には掲示、アプリでお知らせをする。
子どもの成長を把握している。	◎	年2回の健康診断、毎月の身体測定の結果を保護者、保育者、栄養士と情報共有している。
不審者対策を行っている。	◎	年2回様々な想定の下で不審者対応訓練を行う。ICカードにて玄関の施錠管理を行っている。

10・給食

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
給食が楽しく食べられるよう工夫されている。	◎	旬の食材を取り入れ、自家栽培や三浦野菜などを取り入れ、食べる事への意欲を高めている。合同給食、おやつアラカルトの実施で自分の好きな物、食べられる量を理解する機会を設けている。食具の正しい使い方や食事のマナーも伝え楽しく正しく食事をする。食事提供のアセスメントと評価を行い楽しく食べることの出来る献立作成に繋げている。
食育を通して子ども達が食に興味をもてるようにしている。	◎	保育理念、保育目標を基に年間食育計画を立て見通しを持った食育を行っている。行事食・日本の郷土料理・世界の料理に関する献立を作成し食文化を伝えている。
子どものサインを見逃さないようにしている。	◎	年齢に応じた形態、身体測定の結果を反映した量などにし、食べる事に無理強いしない。こどもの健康状態・口腔状態・食べる力をアセスメント、モニタリングし、問題点の有無の確認を実施。
アレルギー除去食の対応。	◎	アレルギー児の把握。トレイや食器の個別化徹底。多職種連携でのチェックで配膳を正確に行う。除去食メニューを作成し保護者、保育者と確認する。

衛生管理の徹底。	◎	HACCPの考えを取り入れた衛生管理に基づき、園の「衛生マニュアル」を作成、実行、徹底。 日報へ行程管理の記入(中心温度・殺菌方法等) (毎日)朝・夕の衛生管理点検・検収の記録 (毎月)害虫生息調査異物混入防止点検実施。
----------	---	---

11・地域支援

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
地域との関係が適切に保たれている	◎	日ごろの挨拶。行事時の声掛け。子ども達との交流。
地域の子育て支援、交流。	○	地域とのつぼみ保育園の大きな役割と考え、様々な交流を行った。高齢者施設訪問、地域の行事参加、園庭解放等。一時保育の際に栄養相談や子育て相談も行う。卒園生を招待したイベントも開催した。

12・職員育成

小分類	評価	評価の根拠・改善方法
職員の質の向上に努めている。	◎	園外研修に参加しその後園内研修として研修発表を行った。新しい情報と同時に園の保育理念も振り返り全員参加で保育計画の見直しを行った。
社会人としての振る舞いを指導している。	◎	正しい言葉遣いで接客や電話対応するよう指導している。ガイドブックを用いた社会人マナーの勉強会を行い自分の仕事に誇りを持てるよう声掛けをしている。

園全体の評価

園全体の計画を職員全員で見直しそれに沿った保育を行った。
 様々考えての見直しではあったが今年度も課題はあがる。
 その年によって月例にばらつきがあり計画通りに進む活動、
 難しい、簡単等が見られた。幅をもたせた計画の重要性を
 感じた。また、季節が変わってきているため期の見直しも
 必要性を感じた。
 今年度は今までの卒園生を招待したイベントを行い
 改めて保育園の役割の大切さを実感する事ができた。

来年度の課題

今年度も職員の自己評価で一斉活動の難しさが課題となった。
 制止や禁止の伝え方を職員で考えながら保育をしていきたい。
 月例差や成長の差があるため体力や理解力にも差がでてくる。
 クラスをいくつかのグループに分けたり、多年齢との合同保育を
 行ったりと様々工夫した。限られた職員人数の中で全員が
 安全に楽しく過ごせるよう考えていきたい。